

児童センター・こどもの城で、
二十二年のボランティア活動

「おはなしの部屋」に、 ようこそ！

毎週土曜日は、
絵本と
紙芝居の日



絵本の世界に、子どもたちは引き込まれていきます



本橋れい子さんは、
話しかけるように



清水将夫さんは、身振り
手振りを交えて熱演



思わず、身を乗り出して

「二階の和室で、絵本の読み聞かせと紙芝居をします。みんな見に来てください。」毎週土曜日、午後二時三十分になると、こどもの城に放送が流れます。会場では、机を取り囲むようにして座った十人ほどの子どもたちが、目を輝かせて待っています。

「おはなしの部屋」が活動を始めたのは、昭和六十一年。本が好きな皆さんが集まって結成しました。初めは読み聞かせのしかたがわからないので、こどもの城の職員に教えてもらったそうです。また、月一回勉強会を開いたり、講演会に行ったりして、少しずつ覚えていきました。「続けることができたのは、がんばりすぎなかったからで



写真は上段右から両角文恵さん・中村さん・伊藤さん・三枝恒子さん・原和子さん
下段右から萩原知美さん・菅沼さん・水田さん・矢内道子さん

す」と、当初からの会員の水田慶子さん・菅沼聖美さん・伊藤淳子さんは笑って話します。通常三人で、三十分程度の読み聞かせをする「おはなしの部屋」。交代で読み聞かせを行う無理のない活動だからこそ、長年続けることができました。

同会の会員は、現在十一人。毎週土曜日の活動のほかに、夏休みやイベントなどに合わせて、手作りのジャンボ紙芝居も行っています。読み聞かせをする絵本は、自分が持っている物や図書館などで借りてきた物。何歳ぐらいの子が何人来るのか、始まる直前までわかりません。そのため読み聞かせの絵本は常に二、三冊用意し、子どもに合わせて



紙芝居を準備する間は、お母さんもうっしょに手遊びを楽しみます

読む本を決めます。十年ぐらい前まで、聞かせる子どものほとんどは小学生でした。最近では四、五歳が中心です。いろいろな絵本を試してみたり、ちよっと難しい物語を読み方である程度わかりやすくなり……その苦労は、やりがいにもなっています。

「聞きたいという子が一人でもいるかぎり、ずっと続けていきたいですね」と同会会長の中村優子さん。依頼があれば、出張読み聞かせにも行きます。子どもたちが読み聞かせをきっかけに、物語に親しんでほしい。本を読むことで、想像力の豊かな子どもに成長してほしい。それが同会の皆さんの願いです。

安全を、針と糸に込めて



男子生徒も、一生懸命作りました

川越初雁高校では4年前から、周辺の小学校に入学する新1年生に、防犯ベルカバーを贈っています。このカバーは同校の1年生全員が、1つ1つ心を込めて手作りした物です。2月8日、高階小学校と高階西小学校で、新1年生の保護者に手渡されました。4月からは、手作りのカバーが新1年生の安全を見守ります。



「みんなで使ってくださいね」

みごと、内閣総理大臣賞！

全国学校図書館協議会ほか主催の第53回青少年読書感想文全国コンクールで、市内から2人が入賞しました。全国で450万を超える応募の中から、中学校の部で最優秀賞の内閣総理大臣賞に選ばれたのは、大東西中学校3年の相原理史くんの感想文。相原くんは、1日に2冊から4冊の本を読みます。同校の図書館の本もほとんど読破。受賞を聞いたときは、ほんとうに驚いたそうです。理科の実験も好きな相原くんは将来、薬剤師を目指しています。



「将来はコックになりたいな」

また、川越第一小学校1年の堀口太陽くんの感想文が優秀賞に選ばれました。堀口くんは、絵本が大好きです。文字と絵の両方を見て理解し、内容を先生に話すこともしばしば。料理も好きで、絵本の中のホットケーキを、家族といっしょに再現したこともあります。「おいしかったよ」と、堀口くん。



2月13日、舟橋市長を表敬訪問した相原くん（左から2番目）



ジャンルを問わず、あらゆる本を読みます



日本代表のユニフォームを着て、力強い投球

「目標は甲子園に出場することです」と、力強く話していました。

霞ヶ関東中学校の野球部は、軟式だけでなくKボールの試合にも出場しています。Kボールとは、重さ・大きさは硬球と同じで、ゴム製のボールです。昨年、Kボールを使用する野球の埼玉県代表「埼玉ALL-STARズ」に、同校野球部の川上くんが選出されました。同年三月と八月の全国大会では、主に投手として活躍。同チームの優勝に貢献しました。また同年十二月には、台湾で行われた親善試合に、日本代表として出場しました。野球は、小学四年生から始めました。以来、野球中心の毎日を送ってきました。投手を選んだのは「いちばん目立つポジションだから」。野球を通して、あいさつや礼儀の大切さも学びました。百三十キロを超える速球を武器に、力で押すのが川上くんの持ち味です。四月からは高校生。ボールも硬球に変わります。投球にさらに磨きがかかるため、毎日の筋力トレーニングを続けています。「目標は甲子園に出場することです」と、力強く話していました。

川上優くん（15歳）

かわごえ
越
び
と
43